

学力向上に係る効果的事例

【行田市教育委員会】

1 本校の現状と課題

本校の生徒の特徴としては、「人前で発表することが苦手である。」「人の話を聞くことや質問にきちんと答えることが苦手である。」「勉強は大切だと思っているが、勉強は好きではない。」「学習の成績（テストの評価）に関心が高く、できれば楽をして成績を上げたいと願っている。」といった実態が見られる。

平成23年度の県・学習状況調査の結果から本校の現状を、県の正答率との比較でみると、社会と英語は教科への関心・意欲・態度が高く、観点別評価で上回っている傾向にあり、国語・数学・理科は関心・意欲・態度が低く、観点別評価で下回っている傾向にある。

国語科において特に「文章の構成や展開を正確にとらえることができる」「集めた材料を分類し整理することができる」が苦手で、表現力に関わる項目が弱い傾向にある。それ故、学習指導においては「学ぶことへの関心・意欲を高めること」、「自分の考えをうまく表現しわかりやすく相手に伝える力や論理的な思考力、判断力のもとに自力で解決する能力を育成すること」が今後の課題である。

2 取組内容

中学校の3年間を生涯学習の一環としてとらえ、1学年を学習に対する姿勢（規律・態度・家庭学習の習慣化）の確立期、2学年を学習に対する意欲と向上の養成期、3学年を学力向上のさらなる充実期とみなし、生徒の発達段階（実態）に応じた教育期間と考える。（本校の学力・学習状況の改善方針）

<組織運営面>

- ①校務分掌に「学力向上」担当を配置し、朝読書（火水木）、朝学習（金、漢字の読み書き）、家庭学習ノート提出（毎日）等に全校を挙げて、組織的・計画的に取り組む。
- ②教職員間で授業を公開し合い、切磋琢磨による授業展開の工夫・改善や指導力向上を目指す。
- ③家庭学習の習慣化を図るための課題の提供や確認テストの予告・実施に取り組む。

<学習指導面>

- ①職員間での各種情報提供による生徒の実態把握に努める。（生徒理解の共有化）
- ②生徒の学習効果を高める教材・教具・資料・自作プリント等の共有化を図る。
- ③学習の定着を図り、やる気を引き出すための授業用プリントの開発に努める。
- ④記述、口述等の表現力向上を図るための表現活動、言語活動の時間を設ける授業展開に努める。
- ⑤小テスト（評価テスト）や学習プリントの活用で、関心・意欲を高め、学習の定着に努める。
- ⑥放課後や長期休業中の補習・補充学習を行い、確かな学力の定着に努める。

